

古書のたのしみ（令和五年七月）

土屋 博

一「山陽文稿」

（求石書堂、明治庚午新雕（明治三年刊）、三一・三二丁）
古書價格千圓也。頼山陽（一七八一年生れ、一八三二年歿）の論説文を蒐集したるものなり。目次は、政刑徳禮論、三家論に始まり、孟子論、明智光秀論（大逆の臣或は多恩の君より出づ）などを経て、最後は「武將賛三十首」（諸葛亮、周瑜など）にて締め括らる。

二「十八史略字引大全 全」河村與一郎閱、片岡義助編輯

（三書堂梓、明治十一年發兌、本文百六十一丁）
古書價格三百三十圓也。「十八史略」は十四世紀南宋曹先之の作。これを自習するための参考書なり。卷末の歴史地圖は、春秋列國の圖、戰國七雄の圖など、赤青黄緑色の彩色麗し。昔の人の學習方法を偲ぶことを得。太古（太はよほどの義）、木徳（木は五行の始め）の説明に始まる。

三「山陽遺稿 文詩 全五冊」帙入

（書林三玉堂藏、明治十二年翻刻、一九一・三十一・三十一・七十一・七十一丁）
古書價格二千五百圓也。縦十三・三糎、横八・四糎のポケットサイズなれば携帯に便利。五冊の構成は、文一、文二、文三、詩一、詩二にして、帙入なり。

四「師範學校編輯 日本畧史 上」

（文部省、明治十二年刊、三四丁）
古書價格三百三十圓也。木村正辭編、那珂通高訂。「第五十九代光孝天皇は仁明天皇の子なり。天皇謙恭寛仁なり。故に基經群臣と迎へてこれを立つ。公卿奏して五位以上の封祿を減ぜむことを請ふ。許さず。勅して御服の絹綿の數を減ず。天皇在位三年にして崩ず。年五十八」と。

五「十八史略纂語字類 上中下」

（三木文明堂、明治十八年刊、五五丁・七七三丁・七三二丁）
古書價格二千圓也。宇都宮籠山校閱、廣島縣土族松井雄次郎編輯。
本の状態よく、とりわけ下巻の歴史地圖うるはし。凡例に曰く、「此書もと童蒙の爲に輯むるものなれば極めて解し易く入り易きを主とし就中熟語等は最も意を用ゐ遺漏なく之れ

を講説す」と。天皇氏は、「天地の開けたる初めの天下を治めたる君なり。天は下の地人に對す。皇は大の義にして天下を保つの稱なり」と。

六「標註 枕草紙讀本 全五冊」佐佐木弘綱標註

(東京書林弦卷藏版、明治二十四年刊、四八十五五十六二十六九十六六丁)

古書價格千二百圓也。佐佐木弘綱(一八二八年生れ、一八九一年歿、帝國大學文科大學古典講習科創設時の教授)は信綱の父。「春は曙」の箇所の標註は、「山は氣に隨ふ物なる故に天氣曇れば遠くして見えず」云々と。

七「名蹟詩史」日本歴史地理研究會編纂

(六盟館、明治三十三年刊、定價金四拾錢、三五二頁)

古書價格三百圓也。目次は、畿内(山城、大和、河内、和泉、攝津)、東海道(伊賀、伊勢、志摩、尾張、三河、遠江、駿河、甲斐など)、東山道、北陸道、山陰道、山陽銅、南海道、西海道、北海道、琉球、臺灣の順。

八「訂正増補 徒然草新釋 上下」大阪府第一中學校教諭渡邊弘人先生釋

(大阪積善館藏版、明治三十七年八版、一五八頁十一一四頁)

古書價格八百圓也。初版は明治二十六年。正三位伯爵冷泉爲紀卿、正四位勲二等西村茂樹大人序文。渡邊先生例言に曰く、「此書の註釋は予が曩に第三高等中學校にありて授業の際ひろく諸抄の説を參考し其中最適切にして最確實なりと認むるものを採擇し之に己が斷案を加へはた語格文法の解釋をも交へて教授せしより成れるものにして其釋く所敢て儒佛の二道に偏せず専ら文詞の意義を了せしむるにあり」と。「つれづれなるままに曰くらし」の一句は、「兼好の大悟發明にして身心の大安樂をあらはしたるものと見えたり」とす。

九「十八史略字解大全 上、中」太田聿郎校閱、前田覺治郎編輯

(浪華書房、上卷九〇丁+中卷七一丁)

古書價格各二百二十圓也。袖珍版。縦十二糎、横八・八糎。緒言に曰く、「夫れ童蒙の勤學して漸く獨見するに及びてや字書の要用たる固より論を俟たず」と。

十「習字兼用 三體手紙之文 完」大町桂月著、玉木愛石書

(精華堂書店、大正五年訂正十二版、定價金四拾五錢、七六丁)

古書價格二百圓也。初版は明治四十五年。三體とは、楷書、行書、草書なり。冒頭の年賀狀の例の冒頭部分は、「改曆の嘉祥萬里同慶日出度申納候先以て御尊家御一同様御安寧御超歳被爲遊奉大賀」。

十一「史記論贊段解 全」三島中洲先生著

(二松學舎、大正十二年刊、定價金七拾錢、九〇頁)

古書價格三百圓也。「太史公(國史編纂の官職、ここでは司馬遷)曰く」の箇所を集大成したるものなり。五帝本紀より日者列傳まで。

十二「頭註 近古史談鈔」修文館編輯部編

(修文館發兌、大正十五年刊、定價金五拾錢、本文八〇頁)

古書價格二百二十圓也。師範學校、中學校の第一學年用漢文副讀本として編纂せらる。織る篇十八篇、豊篇十七篇、徳篇二十一篇を収録す。

十三「綜合 春秋左氏傳索引」安井小太郎・諸橋轍次監修、大東文化學院志道會研究部編

(汲古書院、昭和五十六年影印版、定價七千圓、八九九頁)

古書價格五百圓也。初版は昭和十年。此の書は全卷を分ち十三と爲し、語句、人名、地名、引經(書經・詩經など)、官名、器物、動植物、衣服、天文災異、君子曰、仲尼曰、凡例等の各項に就て更に字畫の順序に従ひて排列す。

十四「契沖全集 第一卷」

(岩波書店、昭和五十七年二刷、定價六千三百圓、六六四頁)

古書價格五百圓也。初版は昭和四十八年。萬葉代匠記の卷一、二、及び惣釋を収録す。

十五「朝の論語」安岡正篤述

(明德出版、平成五年新装十二刷、定價二千二百圓、二三四頁)

古書價格八百圓也。初版は昭和三十七年。小生、ニッポン放送のラジオ放送オリジナル音源十八回分のカセットテープも所有す。本書はそを文字起しせるものなり。

十六「安岡正篤先生生誕百年記念 十八史略」

(安岡正篤先生生誕百年記念事業委員會、平成九年刊、三一頁十三一〇頁、各定價二千六十圓)

古書價格二千圓也。函入。内容は徳間書房版に同じ。

(令和五年八月十日受附)